

3. アナン元国連事務総長のステートメント概要

平成 18 年 11 月 15 日

11月15日(水)午前が開会した COP12 及び COP/MOP2 ハイレベルセグメントにおいて、国際連合のコフィ・アナン事務総長より、以下のとおりステートメントが行われた：

- 気候変動は環境問題のみならず、あらゆる分野に対する脅威 (an all-encompassing threat) である。
 - 言及分野：保健、食糧供給、沿岸居住地、気象災害、貴重な生態系、水資源、平和と安全（発言順）
- 科学者の多くが、現在、地球温暖化にとっての point of no return に、危険な距離にまで近づいている としている。
- 経済学者の間でも認識に変化が見られる。英国スターン卿は、気候変動を「これまでにない規模での市場の失敗」と称した。
- 気候変動への対応として、我々は多くの手段を有している：
 - 炭素市場は年間 1000 億ドル規模に成長する可能性
 - 今、排出量を削減する方が温暖化の影響に対応するよりはるかに安価
 - 途上国における開発においては、温暖化のリスクをより重視すべき
- 気候変動枠組条約が、世界の取組の中心的存在。
- CDM は官民連携の成功例であり、アフリカ地域での促進を図るため、本日、国連の 6 機関が「ナイロビ枠組み」を発表した。
- 対策の 第一義的な責任は、国家、特に大量排出国 にあり、更なる取組が必要。
- 中国などの急成長国も、経済成長と排出量のデカップリングが進んではいるが、更なる取組が必要。
- 企業は、行動の変化や民間投資の促進により、政府と同等以上

の取組が可能。

- 市民も重要な役割を担っている。
- 国際社会の変革はまだ間に合う。政治的勇気が必要。